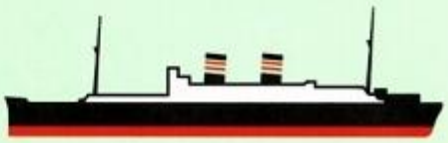
籾山艦船模型製作所の世界

幻のモデルメーカーが残した商船模型



NYK MARITIME MUSEUM
日本郵船歴史博物館

ごあいさつ

戦前、美術工芸品と呼ぶにふさわしい模型を数々生み出した幻のモデルメーカー「籾山(もみやま)艦船模型製作所」。選び抜かれた素材、フォルムの美しさ、細部まで作りこんだ艤装品の黄金色の輝きは、製作より80年以上を経た今でもなお、他の追随を許さない圧倒的な迫力で見る者を魅了し、匠の仕事を伝えています。

戦後は、「籾山(もみやま)船舶模型製作所」と名を変え、数々の精巧な模型を生み出していましたが、職人たちの高齢化に加え、作業の効率化、コストダウンが図られる時代の流れの中で、1993（平成5）年にその歴史に幕を下ろしました。

国内はもとより、海外の博物館でもコレクションされ、高く評価されている籾山(もみやま)製模型ですが、長い年月のうちに、ケースとともに製作元を示す銘板が失われてしまっていたり、所有者が変わり由来がわからないまま保存、展示されているものも少なくありません。

常設展の浅間丸・鎌倉丸1/48スケールの模型をはじめとして、このたびの企画展では、関係者のご協力のもと、戦前の籾山(もみやま)製商船模型に焦点を当て、姉妹船、長崎丸・上海丸の1/48スケールの模型を中心に、伏見丸の銀製模型（1/400）、龍田丸模型（1/96）、その他、籾山(もみやま)艦船模型製作所ゆかりの道具類や部品などを展示し、各施設に保管されている籾山(もみやま)製模型を写真パネルでご紹介いたします。

企画展の開催にあたり、貴重な資料を出品していただきました所蔵者をはじめ、ご指導、ご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

館長　清水　繁

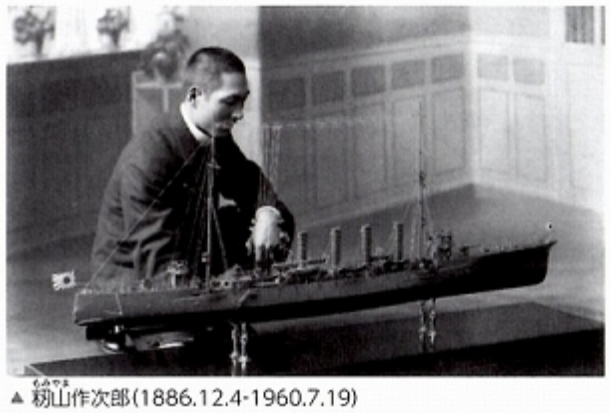
籾山艦船模型製作所の誕生

籾山艦船模型製作所は、その名のとおり艦船の模型製作を主としたモデルメーカーでした。創業者、作次郎の回想録(注1)によると、作次郎の父、邦季(注2)は、ちょうど作次郎が生まれた1886(明治19)年から10年間海軍省に文官として勤めており、そのような環境の中、軍艦に興味を持つようになったようです。絵葉書や写真を集め、軍艦の模型を作るのが趣味であった作次郎は、1910(明治43)年、第2回みつこし児童博覧会に軍艦模型を出品し、見事銀賞をとっています。(『みつこしタイムス』1910(明治43)年、第8巻第6号)

同年、作次郎に転機が訪れます。戦艦「薩摩」の1/300模型を作ったところ、これが当時海軍の造船総監であった福田馬之助の目にとまったため、明治天皇に献上される運びとなったのです。海軍大将、東郷平八郎からも讃辞を送られました。このことがきっかけで、福田の仲介により、川崎造船所の模型製作を引き受けることとなり、1912(明治45)年、籾山艦船模型製作所として本格的に歩みだすこととなります。

師匠を持たず、独学で模型製作を学んだという作次郎にとって、東京帝国大学の造船科を卒業し、船舶工学者でもあった福田との交流が及ぼす影響は大きかったことでしょう。創業の頃には、模型用に引きなおした図面を福田に見てもらっていたと語っています。

▲ 戦艦薩摩模型(1/300)と作次郎へ贈られた東郷平八郎揮毫の額(写真提供/籾山肇氏)
「啓発技能　庚戌春為 籾山氏　東郷書」とある。



▲ 籾山作次郎(1886.12.4-1960.7.19)

注1:「モデル・シップと40年」(『三菱造船』5月号、1952(昭和27)年掲載)
注2: 籾山邦季(1858-1912)号、東洲。海軍省を辞任したのち、1896(明治26)年、三井呉服店(現、(株)三越伊勢丹ホールディングス)へ入店。意匠係長を勤めた。

作品について

籾山艦船模型製作所の主な顧客は、海軍省など国の機関や造船所、船会社などでした。造船所が完成前に船主に渡す、ビルダーズモデルと呼ばれる模型をはじめとして、展示用の模型や、教材用の模型、献上、贈呈用の模型など、いずれも公式図面に基づいた精巧な模型で、艦船模型以外にも、商船、飛行機、機関車、橋梁模型など、多種に渡る模型を製作していました。

その製作総数は、記録がなく、正確に分かっていませんが、艦艇展示模型65隻、商船展示模型170隻、識別用水線上模型670隻、合計905隻でその他、飛行機80機、機関車4両、橋梁模型などの作品が、写真で確認されています。(注1)

籾山製模型の魅力は何といってもその精密さにあります。造船所から公式図面を手に入れたのち、それをもとに100枚にもおよぶ模型用の図面を作成したそうです。木工、金物、組み立て、塗装など、専門の職人による分業制をとっており、最盛期には25名ほどの職人がいたといいます。中には元々家具職人だった職人もいたようで、残されたケースにその名残りを見ることができます。

製作日数は、1/100の模型を6人の職人で作った場合、4ヶ月程度で、艤装品の多いものになると半年要することもあったようです。

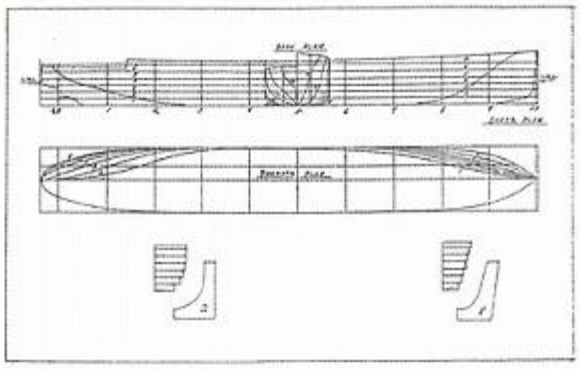
▲ 1914(大正3)年、八坂丸模型の前で記念撮影　作次郎(向かって右から4人目)と職人たち

注1: 泉江三「わが国艦船模型の草分け: 籾山艦船模型製作所について」『日本軍艦模型写真集』海人社(2008)

製作方法（木製模型）

手順

船体を削りだしたのち、アッパーデッキから順に上部構造を仕上げ、艤装品をとりつけ、最後に船体を塗装する。



▲ 削りだし用の図面
パーツごとに、異なるカーブを型に沿って削り出すには、熟練の技が必要だった

各部素材と特徴

- **船体＝乾燥した日本檜**
  柾目(注1)が表になるように切られている
- **梯子（はしご）、ハンドレール＝マホガニー**
  湾曲した部分は蒸気などで曲げ、つぎ合わせてある
- **飾足（しんちゅう）＝真鍮**
  鋳物の方が容易な反面、中が空洞だと運搬中屈曲の可能性があるため、真鍮の丸棒から削り出して製作されている。足の位置は、中心線上に3点留めだと支える力が弱いことから、中央2本、前後1本づつの4点留めのものが多いが、時代や作品ごとにその特徴は異なる。
- **金物付属品＝打物の真鍮材**
  金メッキし、ザポンエナメル(注2)を薄く塗り、ねじ止めか蝋着(注3)で組み立て、本体には、鋲（びょう）などで取りつける。
  接着剤を使用していない点は大きな特徴となっている。
  主な金物の、ベンチレーター、アンカー、プロペラ等は、特に精密に作られているので見所の一つ。

塗装方法

- **船体＝漆**
  漆の塗り方は、日本古来の技法を用い、船体の板の継ぎ目は、幅1分（約3ミリ）、深さ5厘（1.5ミリ）くらい削り取りその中に、コクソ（刻苧または木屎）(注4)を詰め込み、薄い麻布を張り、漆下地で平らにして塗り上げ、磨き仕上げてある。水平に塗るために、黒い漆を塗った後、錫（すず）紙をピンツケ油で張り付け、マスキングした後、赤い漆を塗ってある。喫水線は船首側を船尾側よりも若干上げ、見栄えがよくなる工夫がなされている。
- **マスト＝黄華色のエナメルまたはラッカー**
- **甲板＝ラッカー**
  板の合わせ目を表現するため、墨で線引きの後、ラッカーで仕上げてある。

参考：籾山（もみやま）作次郎「船舶模型の製作法と其の材料」『帝国工芸』第6巻第2号、帝国工芸会（1932）

注1：木目が山形や不規則な波型にならず縦にまっすぐに通っているもの
注2：防錆、艶出し効果のある塗料
注3：とかした金属で接着する工法
注4：繊維くずや木粉を漆に混ぜたもの

銘板

模型の製作者を特定するにあたって、最も確かな証拠となるのが、製作元の記された銘板です。同じデザインのものは、製作年代の近いものと推測されるので、船の竣工年などと比較すると、模型の製作年代や目的を探る上で、重要な情報となります。

ビルダーズモデルの場合、竣工前に引渡しとなりますが、博物館の展示用に作られたり、贈呈用に作られた模型の場合、必ずしも竣工年に近い年代に作成されたとは限らないからです。

銘板は、通常、ケースに直接打ち付けられている為、オリジナルのケースのまま残っているか、模型の付属品として大事に保管されていない限り、保管されている間に、ケースの交換や破棄など、何らかの事情で失われてしまうことが多く、製作者不明として保管されている一因となっています。

作次郎は、その回想録で、「モデルには銘を打ちませんが、見れば作者はすぐわかります」(注1)と語っていますが、よほど熟練した職人の目でもなければ、模型の作りだけを見て、製作者を特定するのは、困難といわざるを得ないでしょう。

▲ 常設展、浅間丸の模型と、鎌倉丸（元、秩父丸）の模型が入っていたケース（左：浅間丸、右：鎌倉丸）

▲ 鎌倉丸（元、秩父丸）の模型が入っていたケース

▲ 鎌倉丸（元、秩父丸）の模型が入っていたケースから採取したプレート
残念ながら船名と要目が記載されている木製のプレートは経年劣化により留具部分に亀裂が入ったためか、上部が失われている。

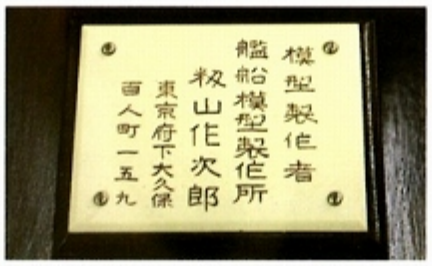
注1：「モデル・シップと40年」（『三菱造船』5月号、1952（昭和27）年掲載）

銘板の種類

今回の所蔵調査で確認された戦前の籾山製模型に残されていた銘板を整理すると次のように分類されました。

※[　]内は今回銘板が確認された模型のうち船の竣工時にオーダーされたと思われるものを基準として抽出した製作年代

1 模型製作者艦船模型製作所籾山作次郎東京府下大久保百人町一五九
[1922(大正11)年～1929(昭和4)年]



▲ 1932(昭和7)年には、淀橋区百人町という住所表記に変わるため、それ以前に製作されたことを示している。

2 東京籾山艦船模型製作所製
[1930(昭和5)年]

3 MODEL MAKERS MOMIYAMA BROs Co TOKIO JAPAN
[1930(昭和5)年]

▲ 海外で展示する模型にはこのプレートが使用されていたと思われる。'モミヤマブラザーズ'という呼称は、作次郎(兄／所長)、卯三郎(弟／経理担当)の兄弟の会社であったことによる。

4 東京籾山艦船模型製作所謹製
[1934(昭和9)年～1940(昭和15)年]

5 その他「MOMI SAKU」

◀ 常設展の信濃丸模型で見つかっためずらしい刻印。1954(昭和29)年から、日本郵船が新橋の交通博物館(現、鉄道博物館／大宮)に貸与していたもので、1993(平成5)年に返還された。詳しい製作年は不明で、製作者も不明であったが、「MOMI」は、籾山の「籾」、「SAKU」は作次郎の「作」と考えられ、籾山製であった可能性が高い。プロペラの作りなどから、初期の作品の可能性が高く、今後、同様の刻印が発見されれば、製作時期の特定につながるかもしれない。

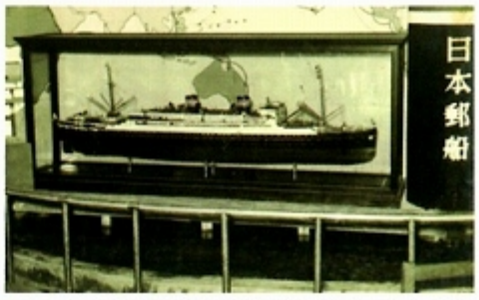
模型の果たした役割

定期的に海外と日本を結ぶ貨客船が行き来し、そのピークを迎えた昭和初頭。船客を誘致する、コマーシャルの目的で、就航船の模型が、造船所ではなく、船主から何隻も注文されました。そのような模型は、各国の支店や代理店へ送られて、店頭にあるウィンドーケースなどに展示されていました。また、博覧会などで企業の出品ブースに展示するために、通常より豪華なケースつきの模型が作られることもありました。

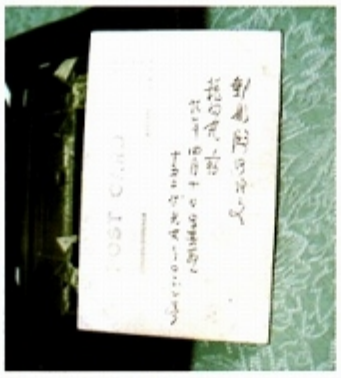
日本郵船の場合は、沢山の就航船の中でも、特に、花形航路であったサンフランシスコ航路の、浅間丸、龍田丸、秩父丸などの模型は、1/50や1/100のスケールのものが、数多く作られたようです。当時、船内で配布されていた広報誌『THE TRAVEL BULLETIN』には、支店や博覧会などで展示されている模型の写真が多数掲載されています。龍田丸の模型などは、度々登場し、シカゴ万博(1933(昭和8)年開催)での展示の様子や、模型を所有していたロサンゼルスのオフィスから、映画会社へ貸出されていたという記事が掲載されています。

広報用に作られた模型には通常、船の就航航路、姉妹船、要目、建造所などの基本情報を掲載した木製のプレートが付属されていましたが、乗船チケットの斡旋場所を記したものもあったようです。このようにして、各地に送られた模型は、残念ながら、戦後その多くが行方不明になっています。

▲ 長崎丸付属のプレート
チケットの斡旋場所として「FUJIYA HOTEL INFORMATION OFFICE」の文字が見える。



▲ 戦前の日本郵船神戸支店船客課にあったという浅間丸模型(写真提供・跡部清氏)
残念ながら、製作者は不明であるが、多数の模型を発注していた経緯から籾山製の可能性が高い。



▲ 龍田丸の模型写真の裏書
「郵船殿御注文 龍田丸 1/96 九年四月十日写真取ル」、「十五日 伏見丸ニテロンドン送ル」とある。龍田丸の竣工から4年後の注文。籾山家でかつて保管されていた写真帖の一部。

籾山船舶模型製作所

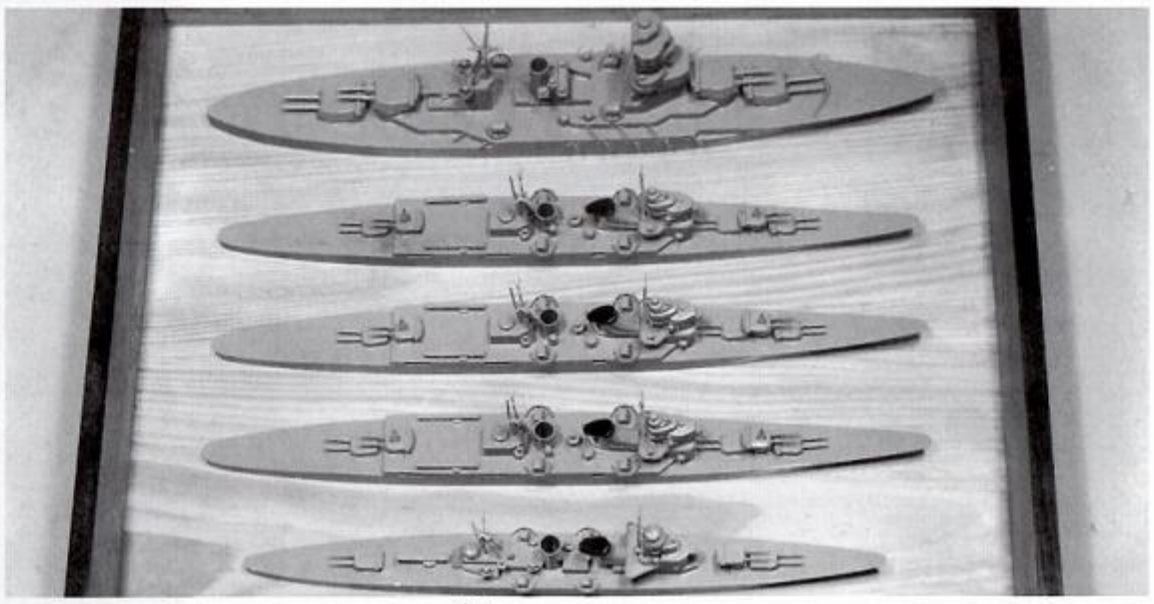
やがて、第二次世界大戦が始まると、海軍から大量に注文の入る、識別訓練や、机上作戦用の小さな軍艦の模型製作に追われるようになり、そのまま終戦をむかえました。

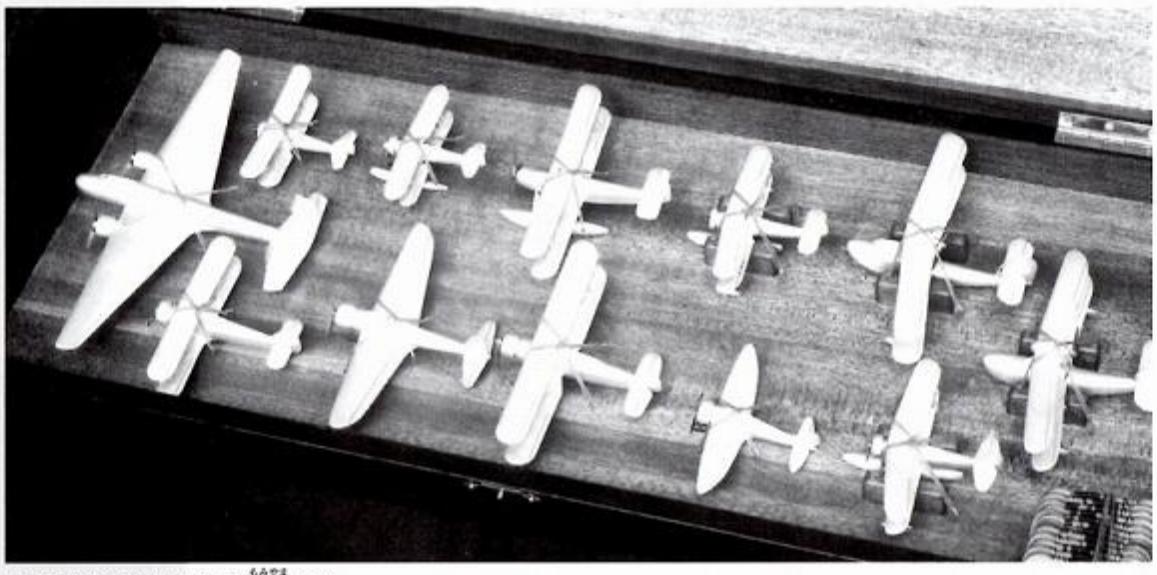
戦後は、息子、蔵太郎が所長となり、「籾山船舶模型製作所」と改めました。蔵太郎は、父の後を継ぐため、旧制官立東京高等工芸学校(現、千葉大学工学部)で木材工芸を学んだのち、戦時中は横須賀海軍工廠で、技術少尉として勤務していました。

しかし、心機一転歩みだした籾山船舶模型製作所をとりまく状況は、戦前とは一変していました。主だった、海軍からの受注はなくなり、定期航路に貨客船が行き交う時代も終わりを迎えたためです。戦後は、博物館へ収める展示模型などを数多く手がけましたが、船主や荷主に贈呈される貨物船やタンカーなどの竣工模型の注文の多くは、次第に、スピードと低価格が求められるような時代となってゆきました。

▲ 籾山蔵太郎(1921.3.30-2003.2.9)

そのような中、古くから模型作りに携わってきた職人たちの高齢化や、バブル期の区画整理事業による転居により、工場を開設することが困難になったという事情もあり、1993(平成5)年、その歴史に幕をとじました。


▲ 戦時中大量につくられた識別用模型(写真提供/籾山肇氏)


▲ 海軍機の模型(写真提供/籾山肇氏)

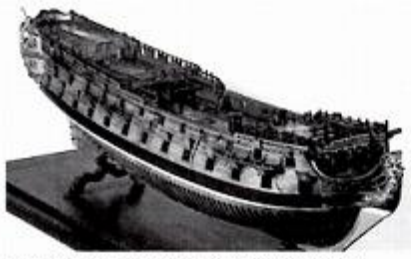
寄稿

ビルダーズモデルについて

泉　江三

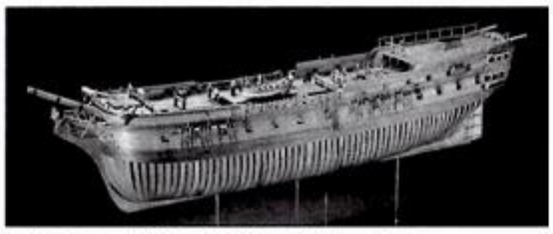
船の模型の起源は青銅器時代の昔に遡るとされていますが、近世までは宗教的な目的で作られたものが殆どでした。模型が実船の雛形としてその姿を現し始めたのは、船体線図作図法がまだ生まれていなかった大航海時代後期（1650年頃）のことで、その当時は雛形を造船所が作り船主に提出するのが習わしでした。その模型は、マストも帆装も省いた船体だけ、しかも肋骨をむき出しにした形に纏め上げられたもので、縮尺はおおよそ1/50。これが初期のビルダーズモデルでした。ここで17世紀の英国艦政委員会（Navy Board）の戦列艦検討会議の様子を描いた「The New Design」という題の1枚の油絵を取り上げて見ましょう。その机上に置かれた模型が初期のビルダーズモデルそのもので、Navy Board Ship Modelとも呼ばれていました。

▲ The New Design（J.S.ルーカス画）
The Victoria and Albert Museum所蔵
「Henry Huddleston Rogers Collection of SHIP MODELS」,Naval Institute Press, Annapolis Maryland U.S.A.(1954)



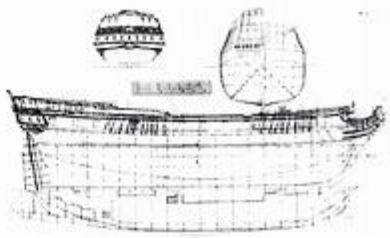
▲ 英国4級艦LIONの1／48模型（1738）
「Navy Board ship Models 1650-1750」,John Franklin, Conway Maritime Press, London(1989)

大航海時代にポルトガル・スペイン両国に後れをとった英・蘭・仏と北欧2国は、1600年から相次いで、東インド会社という会社を設立して海外進出を図り、植民・貿易・布教に必要な交易船の量産に力を注ぎました。しかし造船用材の乱伐がたたって禿げ山が続出、新船の需要を満たすためマラッカ・バタビア・アモイなどに新たな造船基地の建設が進められる中で、技術者育成指導の教材として、ビルダーズモデルに似た構造模型が広く活用されたのです。



▲ 英国東インド会社の交易船1/48模型（1805）
Ship Models, The Clyde Room and the Glasgow Museum's Ship Model Collection(1988)

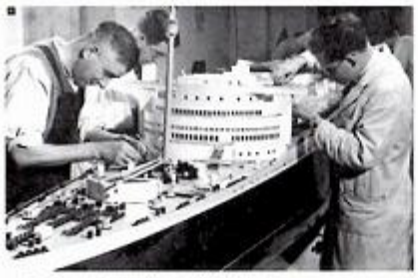
時が流れ、18世紀末には三面図の作図法が普及し始め船体線図が一般的に使われるようになり、ビルダーズモデル本来の目的は次第に薄らいで行きました。20世紀に入ってからのビルダーズモデルは、ほぼ現代の形に近い船の完成状態の全貌を示した模型、フルハル・モデルにその姿を変え、製作目的も「展示・広報・贈答がメイン」と考えられるようになりました。この頃には新造船の契約条項に完成模型が特記される場合が多くなり、丁度この時期が帆船から蒸気船への転換期と重なって船の種類の多様化が進む中でビルダーズモデルの需要も急増、更に1910年頃から精密模型専門メーカー（例えば、英国のBassett-Lowke・日本の籾山（もみやま）艦船模型など）の相次ぐ創業も加わって、完成模型の製作そのものが次第に造船所の手を離れて行ったのです。そうした流れの中で、船主が自社の広報宣伝を目的とした模型を専門メーカー発注するという方式も生まれて来ました。オーナーズモデル：Owners'Modelです。この模型は造船所から提供された公式図面をよりどころに作られたものですから、その仕様も仕上がりもビルダーズモデルと殆ど同じでした。



▲ 18世紀の船体線図／F.H.Chapman（1768）
復刻「Architectura Navalis Mercatoria F.H. Chapman.(1768)」, Edward W. Sweetman Company, New York(1967)

▲ 18世紀の木型工場（フランス）
「THE Encyclopedia of Diderot and d'Alembert」(1751)

▲ Fair Field造船所（イギリス）の模型工場（1909）
「British Shipbuilding Yard, Volume 2」, N.L Middlemiss (1994)



▲ Bassett-Lowkeで製作中のQueen Elizabeth 1/48模型（1948）
「The Bassett-Lowke Story」, Roland Fuller, New Cavandish Books, London(1984)

泉　江三　三菱重工業株式会社神戸造船所 造船設計部 OB。日本船舶海洋工学会 終身会員。
籾山（もみやま）家と親交が深く、2代目蔵太郎氏逝去後、籾山（もみやま）コレクションの整理・記録を手がけた。
NHKスペシャルドラマ『坂の上の雲』艦船考証担当。
主な著作　「世界の帆船模型」朝日新聞社 1978、「日本の戦艦：上下巻」グランプリ出版 2001、「軍艦の模型」海文堂出版 1971

模型の行方

第二次世界大戦により、外地の支店や代理店は閉鎖され、それとともに保管されていた多くの模型は、引揚げの際、何らかの方法で処分されたか、もしくは敵国財産として没収され、その行方が分からなくなっています。また国内の模型についても、個人へ贈呈されたものは、はっきりした記録が残されておらず、また公的機関や、企業で所有していたものについても、戦争により失われたか、もしくは、所有者が変わるなどして、所在が判明しているものはほんの一部です。

次のコーナーでは、本展開催にあたり寄せられた情報をもとに、諸施設に現存する、戦前の籾山(もみやま)製模型をご紹介いたします。　(施設名: 50音順)

所在：ウィスコンシン海洋博物館、マニトウォク市（ウィスコンシン）／アメリカ合衆国

氷川丸 (1930 (昭和5) 年竣工、日本郵船)　縮尺 1/48

建　　造： 横浜船渠株式会社(現、三菱重工業株式会社)
製作所プレート： MODELMAKERS MOMIYAMA BROs Co TOKIO JAPAN

ウィスコンシン海洋博物館(Wisconsin Maritime Museum)は、アメリカ合衆国北部ミシガン湖西岸の都市、マニトウォクにある博物館。第二次世界大戦前までこの模型は、日本郵船のバンクーバー支店に展示されていたものと思われるが、敵国財産としてカナダ政府に接収された。戦後、競売にかけられ、アイオワ州の自動車ディーラーが落札したが、1979(昭和54)年、同博物館へ寄贈された。

所在：旧日本郵船小樽支店（小樽市総合博物館）、小樽市（北海道）

白山丸 (1923 (大正12) 年竣工、日本郵船)　縮尺 1/48

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：なし

来歴不明。旧日本郵船小樽支店は、1906(明治39)年竣工。1955(昭和30)年、事務所移転の際、旧支店事務所が、日本郵船から小樽市に寄贈されたので支店にあった模型をそのまま引き継いだ可能性が高い。1984(昭和59)～1987(昭和62)年に大規模な修理が行われ、小樽支店が、竣工時の姿に復元されており、白山丸のケースもこの頃に作り直されたものと思われる。

所在：鹿児島大学水産学部、鹿児島市（鹿児島）、一般非公開

日本丸 (1930 (昭和5) 年竣工、文部省)　縮尺 1/100

建　　造：株式会社川崎造船所（現、川崎重工業株式会社）
製作所プレート：東京籾山(もみやま)艦船模型製作所製

川崎造船所からの注文で作られたビルダーズモデル。東京海洋大学で所蔵している海王丸の模型と対で製作された。当時、航海練習所(航海訓練所の前身)を所轄していた文部省に引き取られ、文部大臣室に保管されていた。鹿児島大学水産学部同窓会誌『魚水』(第50号、2009(平成21)年)記事によると、日本丸は、同校の前身、鹿児島水産専門学校の練習船霧島丸の遭難がきっかけとなって建造された大型帆船であることから、1949(昭和24)年、当時の校長の交渉によって同校に寄贈されたものとなっている。しかし、関係者によると、それ以前からあったという説もあり、受け入れ時期については諸説あるようだ。

所在：神戸海洋博物館、神戸市（兵庫）

吉林丸（1935（昭和10）年竣工、大阪商船）　縮尺 1/48

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：東京籾山艦船模型製作所謹製

1995（平成7）年の阪神淡路大震災で船体、ケースともに破損したため修理されている。ケースを新調してあるが、製作所名プレートはつけかえられ保存されている。1963（昭和38）年4月25日、神戸海洋博物館の前身、神戸国際港湾博物館建設にあたり、大阪商船（現、商船三井）から寄贈されたもの。

所在：神戸大学海事博物館、神戸市（兵庫）

筥崎丸（1922（大正11）年竣工、日本郵船）　縮尺 1/50

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：なし

神戸高等商船学校が、1952（昭和27）年神戸商船大学（のちに神戸大学へ統合）となった当時、日本中の船会社や、造船所から集めた資料のひとつで、日本郵船から寄託されたもの。1995（平成7）年の阪神淡路大震災で船体、ケースともに破損し、国家資産として修理するため、正式に寄贈となった。脚のつけ方が籾山製としては珍しい前後2本づつとなっている。

所在：神戸大学海事博物館、神戸市（兵庫）

うらる丸（1929（昭和4）年竣工、大阪商船）　縮尺 1/50

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：模型製作者艦船模型製作所籾山作次郎東京府下大久保百人町一五九

筥崎丸と同じく、神戸高等商船学校が、1952（昭和27）年神戸商船大学（のちに神戸大学へ統合）となった当時、日本中の船会社や、造船所から集めた資料のひとつで、大阪商船（現、商船三井）から寄託されたもの。1995（平成7）年の阪神淡路大震災で船体、ケースともに破損し、国家資産として修理するため、正式に寄贈となった。

所在：鈴与株式会社、静岡市（静岡）、一般非公開

靖国丸（1930（昭和5）年竣工、日本郵船）　縮尺 1/48

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：なし

鈴与は、1906（明治39）年に神奈川丸が清水港へ入港以来の日本郵船代理店。1932（昭和7）年に6代目社長、鈴木与平が米国視察の帰途、靖国丸に乗船したことを記念し、日本郵船から寄託された。現在ラウンジに展示されている。ケースはウィスコンシン海洋博物館の氷川丸と同じタイプ。

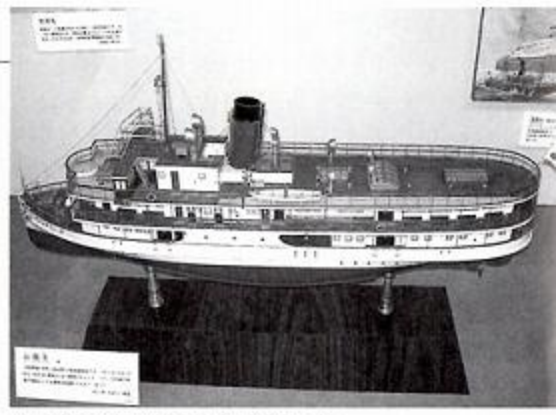
所在：鉄道博物館、大宮市（埼玉）、非公開

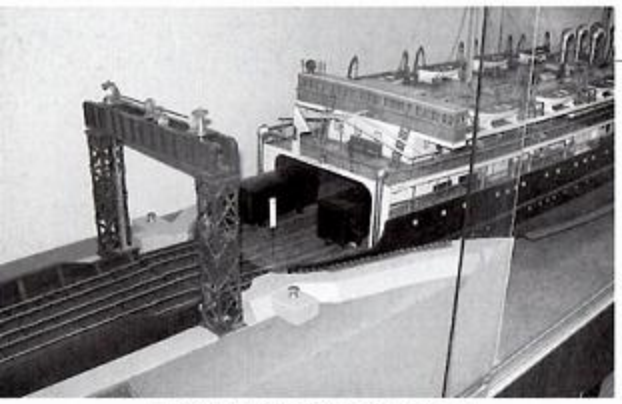
山陽丸（1923（大正12）年竣工、鉄道省）　縮尺1/48

建　　造：三菱造船株式会社　神戸造船所（現、三菱重工業株式会社　神戸造船所）
製作所プレート：なし

山陽丸は、宇高航路（宇野～高松間）に就航していた鉄道連絡船。
三菱造船が運輸局へ寄贈したものを1925（大正14）年に、旧鉄道博物館[注1]へ移管されたもの。

注1：鉄道博物館は、1921（大正10）年に東京駅北側高架下に開館。1936（昭和11）年万世橋へ移転し、終戦直後の休館を経て、1946（昭和21）年交通博物館へ改称。2006（平成18）年、後継施設として大宮に鉄道博物館が開館した。


旧交通博物館時代に撮影されたもの


旧交通博物館時代に撮影されたもの

所在：鉄道博物館、大宮市（埼玉）、非公開

松前丸及び青森港駅（1924（大正13）年竣工、鉄道省）　縮尺 1/48

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：東京籾山（もみやま）艦船模型製作所謹製

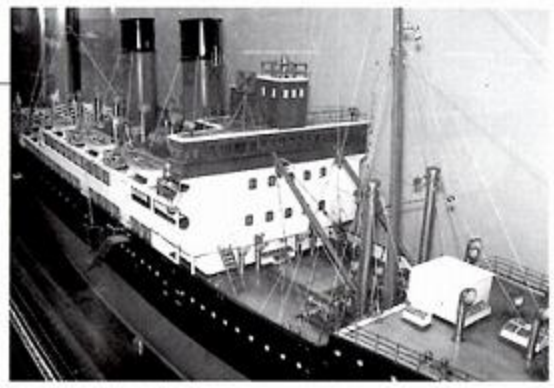
1930（昭和5）年に運輸局から旧鉄道博物館へ移管されたもの。1964（昭和39）年ケース改造。交通博物館時代は、函館山をバックにジオラマで展示されており、可動橋を動かし貨車積み込みの様子を示していた。松前丸は、青函航路に就航し、旅客と貨車の輸送をしていたため、船内に貨車用の軌道が設けてある。

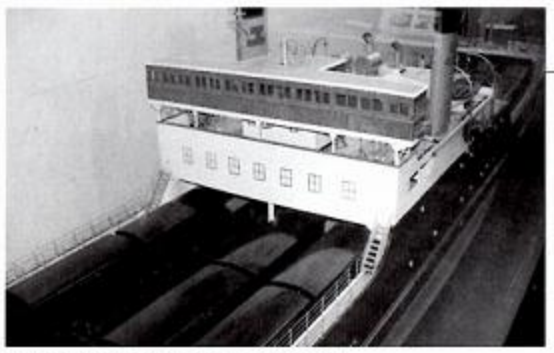
所在：鉄道博物館、大宮市（埼玉）、非公開

亜庭（あにわ）丸（1927年（昭和2）年竣工、鉄道省）　縮尺 1/60

建　　造：株式会社神戸製鋼所播磨造船工場（現、株式会社 IHI）
製作所プレート：模型製作者艦船模型製作所籾山（もみやま）作次郎東京府下大久保百人町一五九

運輸局長室に展示されていたものを旧鉄道博物館が借用。1930（昭和5）年に運輸局から旧鉄道博物館へ移管されたもの。北海道の稚内から樺太の大泊までの間を結んでいた稚泊連絡船で使用されていた砕氷貨客船。


旧交通博物館時代に撮影されたもの


旧交通博物館時代に撮影されたもの

所在：鉄道博物館、大宮市（埼玉）、非公開

第二青函丸（1930（昭和5）年竣工、鉄道省）　縮尺1/48

建　　造：株式会社川崎造船所（現、川崎重工業株式会社）
製作所プレート：東京籾山（もみやま）艦船模型製作所製

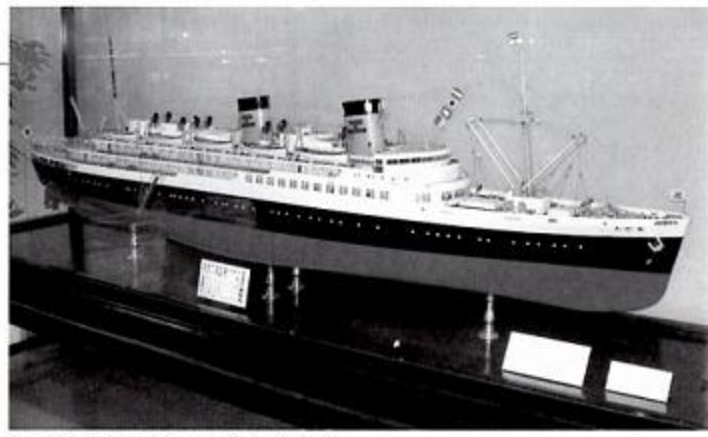
1930（昭和5）年に運輸局から旧鉄道博物館へ移管されたもの。青函航路で貨車航行船として活躍した。

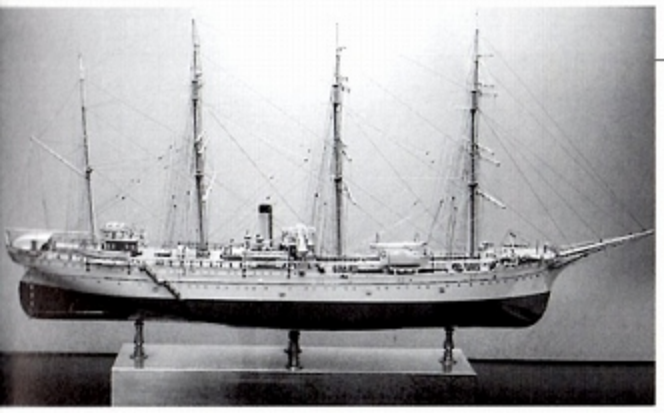
所在：鉄道博物館、大宮市（埼玉）

金剛丸（1936（昭和11）年竣工、鉄道省）　縮尺 1/50

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：東京籾山（もみやま）艦船模型製作所謹製

1936（昭和11）年に運輸局船舶課から旧鉄道博物館へ移管された。関釜航路に就航していた、当時日本最高速の商船。作次郎は、会心作について質問された際、なかなかないが、と前置きした上で、この金剛丸の模型を挙げている。


旧交通博物館時代に撮影されたもの



所在：東京海洋大学越中島キャンパス、江東区（東京）

大成丸（1904（明治37）年竣工、文部省）　縮尺 1/64

建　　造：株式会社川崎造船所（現、川崎重工業株式会社）
製作所プレート：なし

大成丸が完成後程なく建造所の川崎造船所が籾山艦船模型製作所に発注して製作され、文部省に贈呈された模型。現在は、東京海洋大学越中島キャンパス1号館入り口に展示されている。

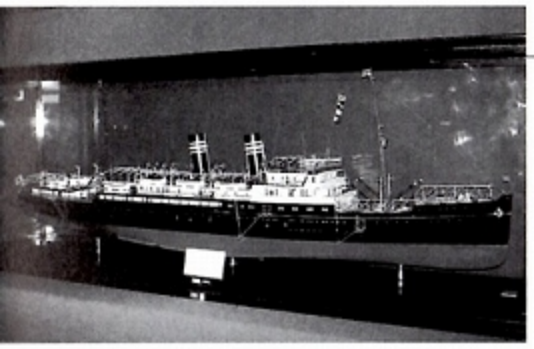
※その後の調査で、大成丸の模型は、籾山艦船模型製作所時代に製作されたものではなく、1957（昭和32）年、大成丸記念会により、東京商船大学（現、東京海洋大学）に寄贈するため、籾山船舶模型製作所に発注された模型であったことが判明しました。

所在：東京海洋大学越中島キャンパス百周年記念資料館、江東区（東京）

天洋丸（2）（1935（昭和10）年竣工、東洋汽船）　縮尺 1/96

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：なし　付け替え「MOMIYAMA MODEL SHIP M.F.G.TOKYO.JAPAN」（戦後）

ケース船尾部分に、戦前の銘板を取り外した跡がみられる。通常、銘板は船首部に設置されている事から、本来この模型は、逆向きに固定されていたことがわかる。展示の都合からか、破損のためかは不明であるが、片方のガラスが鏡面に改造されており、それに伴い模型の向きも逆に付け替えたのだろう。新しく船首側に設置された銘板は、籾山船舶模型製作所になっており、戦後、同社で修理されたことが分かる。ケースは、鹿野丸と同じタイプで同年代に製作されたようだ。籾山家の作品記録写真ファイルに1933（昭和8）年製作として記録されている天洋丸の模型と同一か。（同年、初代天洋丸は売却、解体されている。）海洋大への受け入れは、1935（昭和10）年となっているが、経緯は不明。



所在：東京海洋大学越中島キャンパス百周年記念資料館、江東区（東京）

上海丸（1923（大正12）年竣工、日本郵船）　縮尺 1/50

建　　造：William Denny & Bros., Dumbarton, Scotland
製作所プレート：模型製作者艦船模型製作所籾山作次郎東京府下大久保百人町一五九

右舷側に航路と姉妹船長崎丸の紹介プレートが設置されているので広報用に作られた模型の一つか。受け入れの経緯は不明。

所在：東京海洋大学越中島キャンパス百周年記念資料館、江東区（東京）

海王丸（1930（昭和5）年竣工、文部省）　縮尺 1/100

建　　造：株式会社川崎造船所（現、川崎重工業株式会社）
製作所プレート：東京籾山艦船模型製作所製

川崎造船所からの注文で作られたビルダーズモデル。鹿児島大学で所蔵している日本丸の模型と対で製作された。受け入れの経緯は不明。

所在：東京海洋大学越中島キャンパス百周年記念資料館、江東区（東京）

鹿野丸（1934（昭和9）年竣工、国際汽船）　縮尺 1/96

建　　造：浦賀船渠株式会社
製作所プレート：東京籾山（もみやま）艦船模型製作所謹製

天洋丸と同じタイプのケース。海洋大への受け入れは、1935（昭和10）年となっているが、経緯は不明。鹿野丸は国際汽船の高速貨物船としてニューヨーク航路に就航していた。

所在：東京海洋大学越中島キャンパス百周年記念資料館、江東区（東京）

高千穂丸（1934（昭和9）年竣工、大阪商船）　縮尺 1/48

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：東京籾山（もみやま）艦船模型製作所謹製

模型を利用した授業のために改造されたのか、ケース左舷側が引き戸になっていて鍵が二箇所ついている。籾山（もみやま）家の作品記録写真では、船舷に「たかちほ丸」と書かれているものが、写っているが、この模型には、消された跡が残っている。高千穂丸は、外国製の船しか就航していなかった、阪神～基隆間に始めて国産の船として就航した貨客船。

所在：トランスメリディアン S.A.、リマ市（リマ）／ペルー共和国、一般非公開

平洋丸（1930（昭和5）年竣工、日本郵船）　縮尺 1/48

建　　造：株式会社大阪鉄工所（現、日立造船株式会社）
製作所プレート：なし

現在、南米ペルーのリマにある、日本郵船の代理店、トランスメリディアン S.A.（Transmeridian S.A.）のエントランスに展示されている。日本で製作され、1938（昭和13）年に、当時の代理店Ostern&ciaに船で運ばれたもの。第二次世界大戦により代理店が閉鎖され、その後地元の銀行で保管されていたが、1963（昭和38）年に再び郵船のリマ代理店へ返還され1993（平成5）年に現在の代理店Transmeridian S.A.へ渡った。籾山（もみやま）家の作品記録写真の中に、大阪鉄工所へ納めた平洋丸模型の写真が含まれており、同一だとすればビルダーズモデルの可能性が高い。

所在：名古屋海洋博物館、名古屋市（愛知）

浅間丸（1929（昭和4）年竣工、日本郵船）　縮尺 1/60

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：なし

名古屋港管理組合にあったものが、1984（昭和59）年、名古屋海洋博物館開館に合わせて寄贈された。ケースや銘板はすでになく、1959（昭和34）年、伊勢湾台風の為、水害にあっているが、本体は比較的美しい状態で保管されているという。日本郵船の模型リストに「浅間丸 1/60 名古屋港管理組合、永久貸与」という記録があり、元は日本郵船が所有していた模型と思われる。

所在：日本赤十字社　赤十字情報プラザ、港区（東京）

博愛丸（1899（明治32）年竣工、日本郵船）　縮尺 1/48

建　　造：Lobnitz & Co., Renfrew, Scotland
製作所プレート：模型製作者艦船模型製作所籾山作次郎東京府下大久保百人町一五九

現在、日本赤十字社本社1階の「赤十字情報プラザ」に展示されている。来歴について詳細は不詳だが、赤十字情報プラザの前身にあたる「赤十字参考館」が1926（大正15）年に開館した際の展示品一覧の中に、「博愛丸模型」が記載されているという。博愛丸は有事の際、日本赤十字社が病院船として使用するという契約で日本郵船が運航していた。

所在：船の科学館、品川区（東京）、現在閉館中

ぶえのすあいれす丸（1929（昭和4）年竣工、大阪商船）　縮尺 1/100

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：なし

船の科学館開館時に展示台やケースを廃棄したため製作者銘板は失われていて確認できないが、開館前の石井謙治氏（元海事史学会会長）らの調査により「展示品目録」に籾山製として記載されているという。脚の形状が異なるが、籾山家の作品記録によく似た1/100のぶえのすあいれす丸の写真が残っており、1938（昭和13）年に海軍館に納入されたとなっている。

所在：船の科学館、品川区（東京）、非公開、現在閉館中

洛陽丸（1929（昭和4）年竣工、日清汽船）　縮尺 1/100

建　　造：江南造船廠（中国）
製作所プレート：東京籾山艦船模型製作所謹製

日清汽船寄贈のプレートがついている。籾山家の作品記録に写真が残っており、日清汽船からの注文で、その後海軍館へ寄贈されたもののようだ。海軍館の竣工は、1937（昭和12）年なので、銘板の種類から見ても、その頃製作されたものか。海軍館とは、かつて原宿の東郷神社に隣接してあった海軍の資料館で、艦艇模型やジオラマ、海戦画などを展示してあった。籾山製の艦艇模型も数多く展示されていたという。戦後、その資料の多くは国によって処分され行方は分からなくなっている。船の科学館の設立に合わせ収集された模型の一つ。

所在：船の科学館、品川区（東京）、現在閉館中

新田丸（1940（昭和15）年竣工、日本郵船）　縮尺 1/50

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：東京籾山艦船模型製作所謹製

経年の劣化がひどかったため、大幅に修復されている。脚の部分などは、黒ずんでおり、元々、この模型には、他の籾山製模型にみられる金メッキがされていなかったものと思われる。艤装品はさびがひどかったというので、やはり金メッキに加え、さび止めの加工もされていなかったと見るべきだろう。横浜みなと博物館所蔵のあるぜんちな丸にも見られる特徴である。1938（昭和13）年には、国家総動員法が発令され、戦争に近づく中の物資統制の影響か。

所在：三菱重工業株式会社　長崎造船所　史料館、長崎市（長崎）

あるぜんちな丸（1939（昭和14）年竣工、大阪商船）　縮尺 1/192

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：東京籾山（もみやま）艦船模型製作所謹製

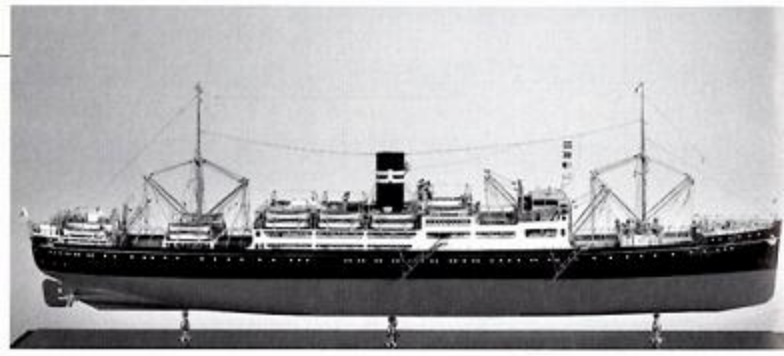
籾山（もみやま）家で保管されていた模型で、2004（平成16）年、蔵太郎氏夫人の道子氏より寄贈された。この模型も戦争直前に製作されたはずだが、小ぶりなせいか、脚の部分には金メッキが施されている。

所在：横浜みなと博物館、横浜市（神奈川）

ぶえのすあいれす丸

（1929（昭和4年）竣工、大阪商船）　縮尺 1／48
建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：なし

横浜みなと博物館の前身、横浜海洋科学博物館（1961（昭和36）年～1988（昭和63）年）に展示するため、開館前の1961（昭和36）年、大阪商船（現、商船三井）から寄贈された。



所在：横浜みなと博物館、横浜市（神奈川）

あるぜんちな丸（1939（昭和14）年竣工、大阪商船）　縮尺 1／48

建　　造：三菱重工業株式会社　長崎造船所
製作所プレート：なし

元々、大阪商船ブエノスアイレス支店にあったが、第2次世界大戦の激化にともない現地貿易商に預けられた後、1961（昭和36）年からアルゼンチン国立商船大学へ貸与されていた。1987（昭和62）年、横浜海洋科学博物館が横浜マリタイムミュージアム（現、横浜みなと博物館）開設に向け、資料収集中この模型の所在が判明したため、大阪商船三井船舶（現、商船三井）を介して交渉し、翌年寄贈された。籾山（もみやま）製模型の特徴である金メッキされた真鍮の輝きがなく、全体的に簡素なイメージ。籾山（もみやま）家の作品記録写真ファイルに、同一と思われる模型が写されているが、背後に「銃後生活刷新」というポスターの文字が見え、当時の空気感が伝わってくる。船の科学館所蔵の新田丸とともに、歴史を伝える貴重な資料といえるだろう。

写真・情報提供

- Wisconsin Maritime Museum
- 小樽市総合博物館
- 鹿児島大学　水産学部
- 鎌倉　巧
- 社団法人神戸港振興協会　神戸海洋博物館
- 神戸大学海事科学研究科　海事博物館
- 七呂　光雄
- 株式会社　鈴与
- 鉄道博物館
- 東京海洋大学　明治丸海事ミュージアム事務室
- Transmeridian S.A.
- 財団法人　名古屋みなと振興財団　名古屋海洋博物館
- 日本赤十字社　赤十字情報プラザ
- 船の科学館
- 三菱重工業株式会社　長崎造船所　史料館
- 横浜みなと博物館

（敬称略・50音順）

展示品リスト

所蔵先	品目	展示品名	年代
当館	絵葉書	上海丸絵葉書	1929-1939年頃
当館	絵葉書	長崎丸、上海丸乗船記念絵葉書	1929-1939年頃
当館	絵葉書	長崎丸絵葉書	1922-1929年頃
当館	絵葉書	平安丸模型絵葉書	1930-1932年頃
鎌倉　巧	参考資料	ヒノキ	
鎌倉　巧	参考資料	マホガニー	
当館	写真	キュナード社ニューヨークオフィスの秩父丸1/48模型	1932
株式会社さんけい	写真	筥崎丸、うらる丸修復記録写真	1995
当館	船内配置図	長崎丸、上海丸船内配置図	1931
当館	図書	「20年の歩み」氷川丸マリンタワー株式会社	1981
当館	図書	「THE TRAVEL BULLETIN」1931年 8月号	1931
当館	図書	「THE TRAVEL BULLETIN」1932年 7月号	1932
当館	図書	「THE TRAVEL BULLETIN」1932年10月号	1932
当館	図書	「THE TRAVEL BULLETIN」1933年 1月号	1933
当館	図書	「THE TRAVEL BULLETIN」1933年11月号	1933
当館	図書	「海事資料館研究年報No.24」神戸商船大学	1996
鎌倉　巧	図書	菅原道雄「鉄道模型工作技法」機芸出版社	1983
当館	パンフレット	長崎丸、上海丸パンフレット	1928
佐藤　八郎	備品	金槌	
鎌倉　巧	備品	カラスロ(黒・白)	
佐藤　八郎	備品	釘	
鎌倉　巧	備品	ケガキ針	
鎌倉　巧	備品	コンパス	
鎌倉　巧	備品	スコヤ	
佐藤　八郎	備品	ダイス	
佐藤　八郎	備品	タップ	
鎌倉　巧	備品	デバイダー各種	
鎌倉　巧	備品	ノギス(三寸)	
鎌倉　巧	備品	ピンセット	
鎌倉　巧	備品	ピンバイス	
佐藤　八郎	備品	マイクロメーター	
鎌倉　巧	備品	ヤスリ	
鎌倉　巧	備品	ヤットコ　大・小	
鎌倉　巧	備品	三角スケール(ft)	
鎌倉　巧	備品	糸鋸	

所蔵先	品目	展示品名	年代
鎌倉　巧	備品	手万力	
鎌倉　巧	備品	折尺(ft)	
鎌倉　巧	備品	鉄切りバサミ	
鎌倉　巧	備品	木製コンパス　大	
佐藤　八郎	模型	海軍艦艇識別模型	1941年頃
東京大学寄託	模型	上海丸模型(1/48)	1923-1932年頃
当館	模型	龍田丸模型(1/96)	1930年頃
東京大学寄託	模型	長崎丸模型(1/48)	1922-1932年頃
当館	模型	伏見丸銀製模型 1/400	1914年頃
当館	模型(その他)	籾山(もみやま)艦船模型製作所プレート	1930年頃
鎌倉　巧	模型部品	9mカッター	
佐藤　八郎	模型部品	アンカー	
佐藤　八郎	模型部品	ウィンチ各種	
佐藤　八郎	模型部品	ウィンドラス	
佐藤　八郎	模型部品	角窓　大・中・小	
佐藤　八郎	模型部品	磁気コンパス	
佐藤　八郎	模型部品	ジャイロコンパス	
佐藤　八郎	模型部品	シャフトブラケット	
佐藤　八郎	模型部品	十字ビット	
佐藤　八郎	模型部品	スタンション	
佐藤　八郎	模型部品	スピーカー	
佐藤　八郎	模型部品	舵輪	
佐藤　八郎	模型部品	積み込み口	
佐藤　八郎	模型部品	デッキライト	
佐藤　八郎	模型部品	テレグラフ	
佐藤　八郎	模型部品	ドア	
佐藤　八郎	模型部品	ハンドレール	
佐藤　八郎	模型部品	吹き出し口	
佐藤　八郎	模型部品	プロペラ	
佐藤　八郎	模型部品	ベンチレーター	
佐藤　八郎	模型部品	ボス	
佐藤　八郎	模型部品	丸窓　大・中・小	
鎌倉　巧	模型部品	ライフボート	
佐藤　八郎	模型部品	ランプ	
鎌倉　巧	模型部品	伝馬船	
鎌倉　巧	模型部品	内火ランチ	

ご協力者一覧

企画展の開催にあたり、貴重な資料を出品していただきました所蔵者をはじめ、ご指導、ご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

跡部　清　Wisconsin Maritime Museum
飯沼　一雄　小樽市総合博物館
泉　江三　株式会社　海人社
鎌倉　巧　鹿児島大学　水産学部
佐藤　八郎　社団法人神戸港振興協会　神戸海洋博物館
七呂　光雄　神戸大学海事科学研究科　海事博物館
滝沢　英太郎　有限会社　佐藤船舶工芸
籾山(もみやま)　肇　株式会社　さんけい
株式会社　鈴与
社団法人　全日本船舶職員協会
鉄道博物館
東京海洋大学
東京大学
Transmeridian S.A.
財団法人　名古屋みなと振興財団　名古屋海洋博物館
日本赤十字社　赤十字情報プラザ
船の科学館
株式会社　三越伊勢丹ホールディングス
三菱重工業株式会社　長崎造船所　史料館
横浜みなと博物館

(敬称略・順不同)

日本郵船歴史博物館
神奈川県横浜市中区海岸通3-9 http://www.nyk.com/rekishi/